アキルスタンダード（年間指導計画）

# 高等学校 令和６年度（１学年用）　教科　情報　科目　情報Ⅰ

教　科：　情報　　科　目：　情報Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　1 組～　7 組

教科担当者：　（　金子　）

使用教科書：　（　日本文教出版　情報Ⅰ　図解と実習　）

使用教材：　（　情報最新トピック集2024、 プリント 等　）

単元の目標：

【知識及び技能】　情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関りについて理解している。

【思考力、判断力、表現力等】　事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。

【学びに向かう力、人間性等】　情報社会との関りについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価規準：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|---|---|
| 情報と情報技術を問題の発見や解決に活用するための知識や技術を身に着けている。<br>情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりを理解することができる。 | 事象を情報とその結びつきの視点から捉えることができる。<br>問題の発見や解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。 | 情報社会との関わりについて考えることができる。<br>問題の発見や解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができる。 |

評価方法と割合：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|---|---|
| ・確認テスト<br>・制作物・課題 | ・確認テスト<br>・制作物・課題 | ・意欲的に学ぼうとする態度<br>・自己評価等ふりかえりの状況 |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード（指導項目・内容） | 知 | 思 | 態 | 評価の方法 | 実績（実施日） 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 5組 | 6組 | 7組 | 配当時間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 | ・タブレットの使い方 | ・タブレットの基本操作を理解できる<br>・授業で使用するTeamsを利用することができる | | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 4 | |
| | 5 | ・情報モラル<br>・秋留台ＳＮＳルール<br>・個人情報の流出<br>・傷つかない傷つけないために<br>・著作権 | ・インターネットを利用する際に守るべき決まりごとについて理解する。<br>・情報モラルに配慮して情報を発信することができる。<br>・SNS等で加害者や被害者にならないための対応が判断できる。<br>・著作権の内容を理解できる。<br>・学校で利用できる著作物を判断できる。 | ○ | ○ | ○ | ・Teams、Classiを利用しての発表<br>・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| | 6 | ・キーボード配列とタイピング<br>・ローマ字入力、文章作成<br>・ショートカットキー<br>・文書処理ソフトウェアで作品制作 | ・キーボードについて、どのキーが何に対応しているかを知る。<br>・文書処理ソフトウェアの基本操作が身についている。<br>・文書処理ソフトウェアで、図、表、画像を利用する方法が身についている。<br>・ショートカットキーを使えるようにする。 | ○ | | ○ | ・確認テスト<br>・Teams、Classiを利用しての発表<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 7 | ・Society5.0<br>・ネットコミュニケーションの特徴<br>・デジタルの世界へ | ・Society5.0とは何か理解できる。<br>・メディアの特性とコミュニケーションの特徴を、その変遷も踏まえて理解できる。<br>・デジタルとは何か理解できる。 | ○ | | ○ | ・Teams、Classiを利用しての発表<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 4 | |
| 2 | 9 | ・数値と文字のデジタル表現<br>・音と映像のデジタル表現<br>・色と動画のデジタル表現 | ・2進法と10進法の仕組みを考えることができる。<br>・デジタルデータとアナログデータを区別できる。<br>・デジタル情報とアナログ情報のメリットとデメリットを考えることができる。 | | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 10 | ・情報デザイン<br>・ユニバーサルデザイン<br>・情報デザインの流れ | ・情報デザインの目的を理解できる。<br>・抽象化、可視化、構造化の方法を理解できる。<br>・ユーザインタフェースの問題点を考えることができる。<br>・想定したユーザの考えや行動を分析できる。 | ○ | ○ | ○ | ・Teams、Classiを利用しての発表<br>・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 11 | ・プレゼンテーションソフトウェアの使い方<br>・プレゼンテーションで作品制作 | ・他者にどのように発表をすると伝わりやすいか理解できる。<br>・プレゼンテーションソフトウェアの基本操作が身についている。 | ○ | | ○ | ・Teams、Classiを利用しての発表<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 12 | ・プログラムの基本構造１<br>・プログラムの基本構造２ | ・プログラムの仕組みを理解できる。<br>・プログラムの組み方を知り、どのように実行されるのかを理解できる。 | | ○ | ○ | ・確認テスト<br>・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| 3 | 1 | ・映像制作 | ・企画書に基づき作成したい動画を構想し、作成することができる。 | ○ | | ○ | ・Teams、Classiを利用しての発表<br>・小テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| | 2 | ・映像制作 | ・企画書に基づき作成したい動画を構想し、作成することができる。 | ○ | | ○ | ・確認テスト<br>・Teams、Classiを利用しての発表<br>・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| | 3 | ・表計算ソフトの利用 | ・関数を使って効率よく活用ができる。 | ○ | ○ | ○ | ・Teams、Classiを利用しての発表<br>・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 4 | |

アキルスタンダード（年間指導計画）

# 高等学校 令和６年度（３学年用）　教科　商業　科目　情報処理

教　科：　商業　　科　目：　情報処理　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　3 学年　必須選択

教科担当者：　（　影山　）

使用教科書：　（　実教出版）情報処理　）

使用教材：　（　実教出版）ビジネス文書実務問題集２級　）

単元の目標：

【知識及び技能】　情報機器と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関りについて理解している。

【思考力、判断力、表現力等】　事象を情報機器とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。

【学びに向かう力、人間性等】　情報社会との関りについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報機器と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価規準：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|---|---|
| 情報機器と情報技術を問題の発見や解決に活用するための知識や技術を身に着けている。<br>情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりを理解することができる。 | 事象を情報機器とその結びつきの視点から捉えることができる。<br>問題の発見や解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。 | 情報社会との関わりについて考えることができる。<br>問題の発見や解決に向けて主体的に情報機器と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができる。 |

評価方法と割合：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|---|---|
| ・制作物（課題等）（80%）<br>・小テスト(20%) | ・制作物（課題等）（80%）<br>・小テスト(20%) | ・意欲的に学ぼうとする態度・自己評価等ふりかえりの状況(100%) |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード（指導項目・内容） | 知 | 思 | 態 | 評価の方法 | 実績（実施日）1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 5組 | 6組 | 7組 | 配当時間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 | ・文書処理ソフトの応用操作<br>ビジネス文書実務２級 | ・ファイル名やフォルダー名など、保存する場合のルールを決め、様々な文書を作成することができる。<br>・１０分で４００字以上の入力を取得 | ○ | | ○ | ・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 4 | |
| | 5 | ・定型文書の作成<br>ビジネス文書実務２級 | ・誰が見ても見やすく、わかりやすい文書を作成することができる。<br>・応用的な文書の構成と、設定方法について理解することができる。<br>・全商ビジネス文書実務２級程度の作成を時間内に作成する。 | ○ | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・確認テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| | 6 | ・視覚的な情報伝達<br>文書デザイン検定２級 | ・文字だけではなく、写真やイラスト、図形などを挿入することができる。<br>・視覚的にわかるチラシやポスターを作成することができ | | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 7 | ・情報整理と伝達 | ・誤字や脱字がないか、論点がずれていないかを自ら見直しをすることができる。<br>・文書処理ソフトの機能を使い、情報をわかりやすく伝えることができる。 | ○ | | ○ | ・授業内での課題提出<br>・確認テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 4 | |
| 2 | 9 | ・表計算ソフトの応用操作<br>・表計算検定２級程度 | ・表計算ソフトの基本的な使用方法を知ることができる。<br>・罫線を引くことや、重要な箇所に色を付けるなど、作成した表を見やすくすることができる。 | ○ | | ○ | ・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 10 | ・関数の利用 | ・関数の種類を知り、どのように使うかを理解することができる。<br>・関数を使用し、様々な資料を作成することができる。 | ○ | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・確認テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 11 | ・グラフの作成<br>・データの並べ替えと抽出 | ・表で作成した内容を視覚的に表現することができる。<br>・グラフを正しく作成することができる。<br>・条件に合うデータだけを抽出することができる。 | ○ | | ○ | ・授業内での課題提出<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 8 | |
| | 12 | ・データの集計と分析 | ・ピボットテーブルを活用できるようになる。<br>・データの集計と分析に関する様々な方法を理解することができる。 | | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・確認テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| 3 | 1 | ・プレゼンテーションソフトの基本操作 | ・自分の考えを伝える手段として、プレゼンテーション資料を活用することができる。 | ○ | | ○ | ・授業内での課題提出<br>・小テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| | 2 | ・オブジェクトの挿入と編集 | ・画像やグラフなどのオブジェクトを挿入することができる。<br>・効果的なプレゼン資料を作成するためにどのような工夫ができるかを考えることができる。 | ○ | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・小テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 6 | |
| | 3 | ・効果的なプレゼンテーション | ・プレゼンテーションに抑揚をつけて魅力あるものにすることができる。<br>・人前で発表をすることができる。 | ○ | ○ | ○ | ・授業内での課題提出<br>・小テスト<br>・振り返りシートの記入 | | | | | | | | 4 | |

アキルスタンダード（年間指導計画）

# 高等学校 令和６年度（３学年用）　教科　商業　科目　簿記

教　科：　商業　科　目：　単位数：　4　単位

対象学年組：第　3 学年　自由選択

教科担当者：（　影山　）

使用教科書：（　新簿記（実教出版）　）

使用教材：（　最新段階式　簿記検定問題集３級（実教出版）　）

単元の目標：

【知識及び技能】　全商簿記検定３級程度の知識・技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】　簿記の基礎を学び、企業会計の基本となる思考や判断力を学ぶ。

【学びに向かう力、人間性等】　検定問題に取り組むことで、達成感や頑張る力を身につける。

評価規準：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|---|---|
| 全商簿記３級程度の知識を身につける | 全商簿記３級程度の知識に基づいて、問題集に取り組み、適切に解答しているか | 出席状況、提出物、授業態度、において学習が主体的におこなわれているか |

評価方法と割合：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|---|---|---|
| 確認テスト（１，２学期中間期末）の基本問題 | 確認テストの応用問題及び検定問題 | 出席状況、提出物、授業態度、振り返り |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード（指導項目・内容） | 知 | 態 | 評価の方法 | 実績（実施日） 1組 | 2組 | 3組 | 4組 | 6組 | 7組 | 配当時間 | 評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 | 簿記の意味、簿記の目標、簿記の必要性の理解 | 企業における経営活動の進め方を学習させ、その中で簿記の役割と重要性を理解させる。簿記の目的と重要性を理解させ、学習の心構えを養う。 | | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 8 | |
| | 5 | 資産・負債・純資産<br>収益・費用<br>貸借対照表・損益計算書の計算<br>中間確認テスト | 簿記の基本要素のうち、資産・負債・純資産の概念を理解させる。<br>簿記の基本要素のうち、収益・費用の概念を理解させる。　貸借対照表と損益計算書の形式と作成方法を習熟させる。 | ○ | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 12 | |
| | 6 | 取引と勘定<br>取引の意味・勘定の意味・勘定科目・勘定口座 | 簿記上の取引の意味を明らかにする。<br>勘定・勘定科目・勘定口座　の意味と、その必要性を理解させる。 | ○ | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 16 | |
| | 7 | 取引と勘定<br>取引要素の結合・勘定への記入法・貸借平均の原理　期末確認テスト | 勘定への記入法を習熟させる。<br>取引要素を明らかにし、その結合関係を理解させる。 | | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 8 | |
| 2 | 9 | 仕訳と勘定への記入<br>仕訳・転記 | 仕訳の意味と役割・必要性を理解させ、その方法を習熟させる。勘定口座への転記について正しく理解させる。 | | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 16 | |
| | 10 | 仕訳帳と総勘定元帳の作成<br>中間確認テスト | 仕訳帳の意味と役割を理解させ、その記入方法を習熟させる。総勘定元帳の意味と役割を理解させ、その記入方法を習熟させる。 | ○ | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 16 | |
| | 11 | 試算表<br>試算表の意味<br>試算表の種類とその作成方法 | 試算表の意味と役割を理解させる。その記入方法を習熟させる。試算表によって誤りを発見する方法について理解させる。 | ○ | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 16 | |
| | 12 | 現金・預金の記帳　期末確認テスト | 簿記上現金として取り扱われるものにはどんなものがあるか理解させる。現金に関する取引について理解させる。 | ○ | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 12 | |
| 3 | 1 | 決算<br>決算の意味<br>決算の手続き<br>期末確認テスト | 決算とその手続きを理解させる。<br>精算表の作成方法を理解し記入方法を習熟させる。 | ○ | ○ | 問題集・プリント | | | | | | | 12 | |